

第30回京都市地域リハビリテーション交流セミナー

報告書

～介護ロボットに触れてみよう～



- 日時 平成28年1月27日（水） 午後2時から4時
場所 京都市地域リハビリテーション推進センター 体育館
主催 京都市（地域リハビリテーション推進センター）
後援 一般社団法人京都府医師会 一般社団法人京都府理学療法士会
一般社団法人京都府作業療法士会 一般社団法人京都府言語聴覚士会
公益社団法人京都府介護支援専門員会 一般社団法人京都社会福祉士会
公益社団法人京都市身体障害者団体連合会
公益財団法人京都新聞社会福祉事業団
KBS 京都 J:COM 京都みやびじょん 京都市教育委員会
協力 社会福祉法人京都市社会福祉協議会 アサヒサンクリーン株式会社
大和ハウス工業株式会社 パナソニックエイジフリーライフテック株式会社

京都市地域リハビリテーション推進センターでは、障害のあるなしに関わらず、市民の皆様が相互に支え合い安心して暮らせる環境づくりを目的に「地域リハビリテーション交流セミナー」を開催しています。

近年の高齢化社会において、誰もがいつ介護や介助をする、あるいはされる立場になるかわからず、その可能性はますます高くなっています。

30回目となる今回は、将来の介護及び介助を共に考えていくために、現在介護場面で注目され、使い始められつつある移乗介助の負担を軽減する介護ロボット及び介助ロボットの紹介や、障害疑似体験等を内容として、開催しました。

当日は、112名の方に御参加いただき、2時間という短い時間の中ではありましたが、会場は熱気に満ち、様々な体験をしていただくことができました。

※ 京都市地域リハビリテーション推進センター

平成 25 年 10 月に策定した「京都市におけるリハビリテーション行政の基本方針」に基づき、昨年 4 月、旧京都市身体障害者リハビリテーションセンターを、地域リハビリテーションのより一層の推進と新たなニーズである高次脳機能障害者支援の取組に重点を置く「京都市地域リハビリテーション推進センター」に機能再編し、障害のある市民が地域で快適に生活できる環境づくりの推進拠点として運営しています。

目 次

開会挨拶	・・・・・・・・・・	1
介護ロボット体験	・・・・・・・・・・	2
障害疑似体験	・・・・・・・・・・	5
アンケートから	・・・・・・・・・・	7

開会挨拶

京都市地域リハビリテーション推進センター 所長 西尾 健

京都市におきましては、平成27年4月に旧京都市身体障害者リハビリテーションセンターを「京都市地域リハビリテーション推進センター」に機能再編し、医療機関でのリハビリテーションが終了した後の生活期に円滑に移行できる仕組み作りをすすめております。



この交流セミナーは、さまざまな角度から地域におけるリハビリテーションを推進するため、障害のある人もない人も共に地域で豊かに生活できますよう、環境作りについて考えることを目的に開催しています。

近年の高齢化社会におきましては、誰もが介護や介助をする、あるいはされる立場になる可能性が、ますます高くなっています。30回目となる今回の交流セミナーでは、現在介護場面で注目され、使い始められつつある移乗介助の負担を軽減する介護ロボット及び介助ロボットを紹介して、そして体験していただきます。また、障害疑似体験をしていただくことにより、理解を一層深めていただきたいと考えております。

本日の交流セミナーをきっかけに、障害とその介護、介助に対する理解や関心を深めていただき、障害のある人が住み慣れた地域で、より質の高い生活がおくれますよう多くの市民の皆様の御理解と御参加をお願いいたします。

介護ロボット体験

移乗介助の負担を軽減する介護ロボットを観て、触れて、体験していただきました。多くの方々にお越しいただき、会場内は熱気に満ちていました。

■ 介護用マッスルスーツ (アサヒサンクリーン株式会社)



マッスルスーツとは、アサヒサンクリーン株式会社が東京理科大学工学部小林研究室と共に開発中の介護現場における介助者の負担軽減を目的とした「着型式筋力補助装置」です。マッスルスーツには「人工筋肉」が内蔵されており、中腰介助時における「介助者の腰負担軽減」を図ることができます。

実際に装着して、介助時の動作をしたり、重りを持ち上げたりなどして体験していただきました。



■ 離床アシストベッド リショーネ

(パナソニックエイジフリーライフテック株式会社)

リショーネは、電動ベッドの一部が分離、変形して電動リクライニング車椅子になるベッドです。介護を受ける側は負担なく、臥位、座位を切り替えることができ、介助する側はベッドと車椅子間の移乗介助が無理なく簡単・安全に行えます。



電動ベッドの・・・



一部が分離して・・・



電動車椅子に！

ベッドから車椅子になるまでを体験していただきました。寝心地がいい、驚いたなどの感想が聞かれました。



■ 介護支援用ロボットスーツHAL（大和ハウス工業株式会社）

HALは、生体電位信号を読み取ることで、移乗介助や体位変換介助などを行う際の、腰部の筋肉、腰椎、椎間板にかかる負担を軽減します。

実際に装着して、介助の動きをしてみながら腰の負担の軽さを体験していただきました。



■ 免荷式リフト POPO（大和ハウス工業株式会社）

不安定な体でもしっかりと支えてくれる免荷式リフトです。安全に立ち座りができ、また転倒の危険を防ぎながら歩行訓練ができます。



■ 会話支援機器 COMUOON（大和ハウス工業株式会社）



COMUOONは、難聴者の聴こえの支援のために開発された会話支援機器です。独自の形状と設計で難聴でも聞き取りやすい音声を出力します。

障害疑似体験

■ 高齢者疑似体験

「うらしま太郎」は特殊眼鏡やサポーターなどのグッズをつけることにより、80～90歳になった時の心身状況を体験するものです。

グッズを装着した状態で、チラシを見る、書く、お金を取り出す、階段を昇降するなどを行い、見えにくさや動きにくさなど身体機能の低下を体感することにより、バリアフリーやユニバーサルデザインの社会環境づくりについて考えていただく機会となりました。



■ 車椅子体験（普通型車椅子）

車椅子を操作することにより、操作に必要な身体機能や車椅子使用のために必要なスペース等を考えていただきました。



■ 短下肢装具装着体験(金属支柱付短下肢装具・プラスチック短下肢装具)

短下肢装具を着用すると、どのような機能が補えるのか、また種類によって何が違うのかを実際に装着して体験していただきました。



※ 当センター紹介パネル



地域リハビリテーション推進センターの事業を各課ごとに図解、写真等で分かりやすく展示し、紹介しました。



～アンケートから～

アンケートの一部を抜粋しています。

介護ロボット全般

- 実際に装着し、使用する場面を想定しながら試用できた。費用等詳しく聞けた。
- 介護ロボットを実際に体験でき、勉強になった。
- 現場で実際に利用できたら職員の負担を軽減できそうな気がした。
- 丁寧な説明をしていただき、またテレビ等で見て知っていたというレベルから体験できたことがとても良かった。
- 実際に使えたのは良かった。介護ロボットも限定された場面でも役立つと思う。
- 間近で見られてよかった。
- 現在最新の技術を見せていただいて良かったです。今後、各人に利用できるよう改善後の成果も知りたい。
- 普段なかなか目にしないものが見られました。参考になった。
- 少なかったが1つずつじっくり見られた。
- 仕組みが体験を通してよく分かったと思う。課題はあるとは思いますが、改善されると思う。
- 小規模事業所、個人での導入は現段階では困難そう。
- いろいろな機器に触れられ、体験できた。
- もう少しデモ機が欲しかった。
- さまざまな企業の介護ロボットに触れることができた。
- ロボットスーツの実用化はまだ遠そうであると思う。
- もう少し分かりやすいデモンストレーションがあると期待していたのに・・・。
- 業者が少なかった。
- ゆっくり体験でき、説明もよく聞けてよかった。
- 介護ロボット導入の時代となるのですが、時代とともに進化もしていくでしょうが、リーズナブルで軽く装着できる機器が現実になりますように。介護現場の離職率を止めたいですね。

介護用マッスルスーツ（アサヒサンクリーン）

- パワーを実感できた。
- 身体の動かし方が想像以上に難しかった。普段全身を使って持ち上げるので背筋を使った身体の動きに慣れが必要。
- 支持力は良かった。手動で支持力のスイッチを入れるのはいまいちであった。
- 腰がとても楽だった。
- 腰と背中が楽でした。負担は軽いけど、施設に導入するには難しいと思った。（本体の重さ、持つ腕の力が変わらないので）
- マッスルスーツの重さをもう少し軽くして欲しい。
- アシスト機能が良かったが、地面からの動きができないのが残念です。
- 実際の現場で体験してみたいです。
- 背負うのが重い。
- マウスピースでの操作が難しそうだと思います。
- ロボットの動きに慣れるために練習が必要だと感じました。
- 自分一人で操作するのは難しいと思った。肩と両太ももにかかる力が重く感じた。
- 腰の負担が軽減できるのが実感できた。
- 重いと思います。
- 介助する側、される側双方の負担を軽減できそう。
- 身体への負担軽減でき、身体介護に役立つ。自分もロボットになった気分。
- 少し重い。うっとおしさがある
- 初動負荷がたいへん楽でした。

HAL・COMUOON・POPO（大和ハウス工業株式会社）

- 順番が回ってこず時間切れ。デモ機がもう2台ほど用意して欲しかった。
- 自動で支持力が入るのが良かった。アシストが少し足りないように思えた。
- 以前よりは装着しやすくなっている。
- 体幹のサポートが欲しいような気がした。
- コミュニの説明を聞きたかったのですが、スタッフがお忙しくて残念。
- やっぱりHALがいい。画期的。

- 動きに慣れず実感しづらかったが、応用できそう。
- 未来を感じた。使える部分もあると思う。
- つけるのが大変時間がかかる。
- 腰がアシストされていることが実感できました。
- 待ち人多く時間がなかったです。
- HAL は違和感が強かった。
- 着脱がもっと簡単になるとよいと思います。
- エラーが出て実体験はすることができなかった。
- 長時間の中腰動作を必要とされるベッド上での排泄介助等に良いのかなあ。
- 軽そう。テープのコストと貼るのが面倒かな。
- HAL が1 台しかなく、体験できなかった。

離床アシストベッド リショーン (パナソニックエイジフリーライフテック株式会社)

- アイデアは面白かった。今日一番実用性が高いと感じた。
- 移乗の負担を大きく改善できそうな気がした。
- あまりに値段が高いのでびっくりしました。
- 使い心地がよさそう。
- 導入できたら良さそうと思った。
- 施設にぜひ欲しい。もう少し安ければ・・・。
- 寝たきりの方をリクライニングの車椅子に移乗しなくてもそのまま起きていただくことができ、とても介助者、両方の負担がなくて良いと思いました。
- 寝心地が良好だった。
- ゆっくりと動き、安心感がありました。
- 介護保険で使えることを望む。
- 移乗には負担が少ないと思いますが、エアマット等の使用が難しいかと思います。
- 移動が電動で楽にできるのがわかりました。
- 同じ職場の人が体験しているのを見てベッドが半分分かれて車椅子になるのが驚きでした。
- リーズナブルになると良いと思う。リモコンを本人から隠せる位置がよい

- 感動しました。介護者の負担もなく、要介護者に気をつかわさず、人間らしく生活できる。ただ、高いですね。

擬似体験

- 「うらしまセット」はいろいろな障害に対しての体験ができ、今までできて当然と思っていた動作が年とともに困難になっていく怖さ、不自由さの中で、生活することの大変さが感じられた。
- 視覚障害が考えていた以上に不自由だった。
- 足ジョイントの動き一つで歩きにくくなるのが実感できた。
- 自分が体験することによって不自由なことに目を向けることができた。今後の介助に大切なことを考えていけるようにしていきたいです。
- 短下肢装具の体験はとても良かった。
- 何事も体験が大事だと思います。
- 白内障の方の見えにくい気持ちが体験できました。
- 障害者の方の不自由さを体験でき、よかったです。
- 年とともにできていたことができなくなっていく不安。不安の中での生活を体験できました。

その他

- 色々な体験ができて、今後役に立てることができそうです。
- 普段このような体験はできないし、実際体験してみてよかったです。
- 興味はあるが、なかなか経験できないことが経験できてよかった。
- ネット等の情報で頭で知ると実際身体で知るのは大きな違いを感じた。
- 実際に体験できる機会として勉強になりました。
- 介護ロボットやリハセンターの行事活動が見れた。
- 一つ一つゆっくりしっかりの体験だったので時間がかかり、全ての体験ができなくて残念でした。他の人の体験の様子を見ても勉強になりました。
- 介護ロボットや高齢者体験「うらしまたろう」の体験ができて展示を見て回るだけのイベントと違い、楽しく学習できた。

- ロボットというテーマであったが、補助道具での展示と実践であった。もっと正確な案内をしてほしかった。しかし、介護現場がもっと働きやすい開発の必要性を思いました。ありがとうございました。
- 介護ロボットの体験、機種も増やして、また実施してください。
- 介護ロボットについて興味があって、本セミナーに参加させていただきました。本日のように実際に見ることができたのは初めてです。
- 高齢になったので種々不安なことが多くなった。介護される身になった時の参考にと思いました。見聞を広げられた。
- 重たいものを運ぶ作業に参考になりました。
- 介護ロボットを次回も行なって欲しい。
- とても良い体験ができて今後に生かしていけそうです。ありがとうございました。
- 有意義な体験でした。全て体験したかったのですが、待ち時間が長くできなかったところは残念でした。



第30回京都市地域リハビリテーション交流セミナー報告書
平成28年 月発行

編集発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
住所 〒604-8854
京都市中京区壬生仙念町30
電話 (075) 823-1666